

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

“41.8℃の衝撃”—— 潜む地球温暖化

今年(2025年)8月上旬は、全国各地で気温40℃以上を記録するなど日最高気温の記録が更新され、全国的に異常で危険な暑さの日が続きました。皆さまも「この暑さにはマイッタ! 何とかならないの!!」と感じられたのではないのでしょうか。

右グラフの「東京における気温の平年値グラフ」をご覧くださいと、1年の中で最も気温が高い時期は、8月上旬であることがわかります。

なぜ8月上旬が最も暑いのでしょうか?

地球は太陽の周りを公転していますが、その地軸は公転面に対して約23.4°傾いています。この傾きによって季節、寒暖が生じます。

太陽の南中高度が最も高くなり、日射が最大になるのが“夏至”、6月22日ごろです。しかし、大地や海に“熱が蓄積”され、そこから接する空気に熱が伝わるには時間がかかります。そのため、気温のピークは夏至から約6～7週間遅れて訪れます。空気は日射によって直接暖められるわけではありません。

これは1日の気温変化と同じ仕組みです。太陽は正午前後に南中となり日射量が最大になりますが、通常だと日最高気温はそれからおよそ2時間後、14時前後に出やすくなります。

グラフからもおわかりいただけるとおり、8月上旬を過ぎると、少しずつ気温は下がり、暑さも和らぎます。熱中症警戒アラートも猛暑のニュースも減っていくでしょう。

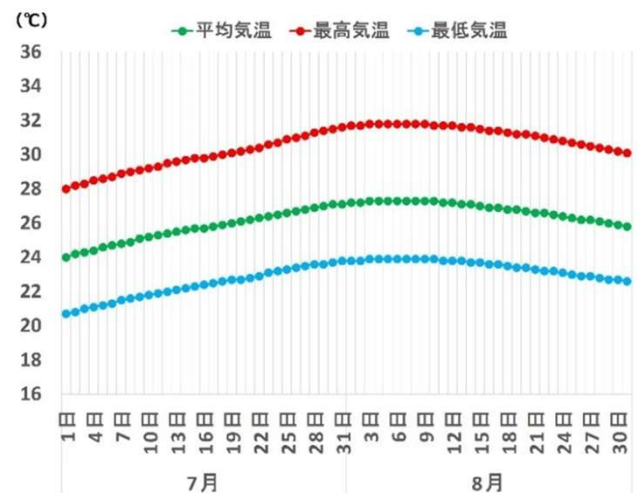
耐えがたい気温が報道される際には、その高温による影響、熱中症など健康面をはじめ生活・農業・観光への影響について多く報じられ、また原因となる気圧配置や大気の大気構造などの解説も伝えられます。ただ、その背景にある“確実に進んでいる地球温暖化”についての解説・報道が少ないと感じられ、残念に思います。

我が国で初めて40℃以上の気温を記録したのは1927年、愛媛県宇和島市の40.2℃でした。

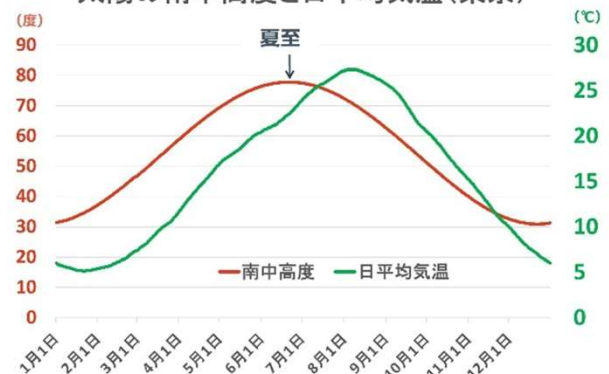
その後、どのように日最高気温が記録更新されていった経緯を見ることで、どのようなことがわかるでしょうか。

6年後の1933年山形市で40.8℃に更新されました。しかし、その後“74年間”も更新はありませんでした。2007年になって多治見市と熊谷市で40.9℃を同日更新され、その後は数年おきに更新されています。近年、“40℃越え”を報道されても驚きが薄れ、注目する温度も“41℃以上”になっているようにも感じます。

気温平年値(7～8月 東京)



太陽の南中高度と日平均気温(東京)



我が国における気温 40℃以上の記録更新

温度(℃)	観 測 日	観測地点(観測所名)
40.2	1927 年 7 月 22 日	愛媛県宇和島市
40.8	1933 年 7 月 25 日	山形県山形市
40.9	2007 年 8 月 16 日	岐阜県多治見市 埼玉県熊谷市
41.0	2013 年 8 月 12 日	高知県四万十市(江川崎)
41.1	2018 年 7 月 23 日	埼玉県熊谷市
41.2	2025 年 7 月 30 日	兵庫県丹波市(柏原)
41.8	2025 年 8 月 5 日	群馬県伊勢崎市

出典：気象庁ホームページ「観測史上の順位」などから筆者作成

ところが今年(2025 年)は丹波市で 41.2℃、さらに 6 日後には伊勢崎市で 41.8℃が記録されました。これまでかなりの年数をかけて 0.1℃刻みでの記録更新が多かった中、今年は 2 回の更新、それも一気に 0.6～0.7℃も上昇してしまいました。とんでもない異例の事態です。背景に地球温暖化が進行していることが読みとられ、“ここまで進んだか”と感じてしまいます。

地球温暖化の進行は、国内外から報じられる極端な気象現象や災害によっても実感できますが、私たちの身の回りでも、紅葉の時期がより遅れるようになったとか、冬の早朝でも氷が張らないとか、桜の開花が早まっているとか、春と秋の季節が短くなったとか——多くの方がこうした変化を実感しているのではないのでしょうか。

地球温暖化の進行は、もはや遠い未来の話ではありません。すでに私たちの暮らしや自然環境に影響し、次のような災害リスクなども懸念されています。

- ・ 記録的な猛暑や熱波の頻発
- ・ 豪雨や洪水の激化
- ・ より強い破壊的な台風の発生
- ・ 海面上昇による沿岸地域への脅威
- ・ 砂漠化や山林火災の増加
- ・ 海の酸性化に伴う生態系の変化
- ・ 農業・食料資源への影響 など

これらの現象は、地球規模の危機であると同時に、私たち一人ひとりの生活にも直結してくる問題です。私たちはこの事態の深刻さを改めて再認識し、地球温暖化防止への取り組みを、皆さまと共にさらに力強く推進していきたいと思います。個人やご家庭でもできる、節電、徒歩や自転車での移動、4 R（リフューズ[断る]、リデュース[減らす]、リユース[繰り返し使う]、リサイクル[資源として再利用する]）がありますので、皆様と一緒に考え、できるところから取り組んでいけたら嬉しいです。

耐えがたい暑さを引き起こす背景には、確実に進みつつある“地球温暖化”があることを、どうか忘れてないでいただきたいと思います。

喉元(8 月)過ぎれば熱さ(暑さ)を忘れる

であっても、進行している“地球温暖化”のことはお忘れなく——。